

第1回ひょうごフィールドパビリオンコーディネート会議 議事録

日 時：令和8年8月4日（火）10:30～12:15

場 所：3号館10階 庁議室

出席者：委員5名、アドバイザー1名

■ひょうごフィールドパビリオンコーディネート会議及び、万博後の動きについて

事務局

- ・資料に沿って説明

■ひょうごフィールドパビリオンの今後の展開について

事務局

- ・資料に沿って説明

委員等

- ・万博後のメッセージを明確化する必要があるだろう。その展開にあたっては、文化資本の蓄積というストックの視点が重要である。例えば、県民局毎にひょうごフィールドパビリオン（以下、FP）の学芸員みたいな人がいてもいい。そのうえで、テーマに向かった道筋を示すなどロードマップが必要になる。年度毎にテーマがあってもいいと考える。
- ・万博期間中に誘客の少なかったフェスの但馬・丹波の開催を検討する等、兵庫全体を視野に入れた取組が必要である。

委員等

- ・FPが将来的に、どう自立・自走していくかが重要であり、兵庫県がそのニューモデルを新たに作っていく取組が少し見えてきたと感じている。プレイヤーの自発性を促すためにも、プレイヤーが主語となるようなメッセージ性が大切である。

委員等

- ・グローバルスタンダードでなく、リージョナルスタンダードで横に繋がるのが大切。兵庫も「兵庫発」の新しいルールやレギュレーション発信していくのが大事。
- ・地域の人が地域の課題に向き合って束なって発信できるよう、県がメッセージを作ることが望ましい。

委員等

- ・集客やネットワーク化はどの地域でも目指している。価値を生み出すための元手や再生可能な蓄積資源を、「地域資本」と捉え、その循環が大切で、人的資本が核となる。そのためゴールとしては、自立・自走が分かりやすいのではないかと思う。

委員等

- ・5年後、10年後、県がFPをどうしていきたいのか、明確なビジョンが必要になるだろう。
- ・自立・自走できているプログラムとそうでないプログラムがあるので、色分けしていくのが望ましい。
- ・色分けにあたっては、磨き上げアドバイザーの存在が大切である。

事務局

- ・質の異なるプログラムが数多くある中で、各々がその質を高める方向性が見えるように仕掛けていきたい。

■SDGs 体験型認定プログラム（第 12 次認定）について

事務局

- ・資料に沿って説明

委員等

- ・万博を契機に始まった FP ではあるが、万博後も地域の取組を認めてもらいたいと手を挙げていただいていた方が多くいる。特に一部では、FP として位置付けることによって、市行政の中で支援していく仕組みがある市町もある。そのような仕掛けが広がっていけば良いだろう。

委員等（全員）

- ・事務局案のとおり、8 プログラムを認定。